
春の日

匿名透明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春の日

【Nコード】

N6344T

【作者名】

匿名透明

【あらすじ】

中卒はステータスだ！！

「惇也と????」

「おーい、起きろー、朝……は過ぎて昼だぜー」

「……誰だ、俺のスイミングタイムを邪魔するのは

「えっ？ 俺だけど？ てゆうかスイミングじゃなくてスリーピングだよな、お前そんなにバカだったっけ？」

「バカじゃねえよ、ほら、スイミングのスイミンに睡眠の意味を持たせて……説明させるなバカ野郎、古林の真似だよ

「ああ、古林なら言いそくだなそれ、むしろ古林が言ったなら理解できたわ。でも惇也が言ってもあれだな、そもそもお前はツッコミ専門だからボケるな

「あのな……お前とか古林が何かとボケたがるから、俺がツッコミに回ってんだからな？ だいたいお前らひどいよな、俺がボケても、お前はアホだから伝わらないし、古林はそもそもツッコミ放棄してるし

「アイツはボケたがりやさんだからな

「逆に、アイツのボケは変に頭使うから、お前じゃツッコミどころが分からねーから、全てのツッコミは俺に回ってくんだよ

「お前ちよいちよい俺をバカにするよな、でも俺が古林と二人だと、アイツはツッコミに回ってくれるぞ？ お前ほど巧くはないけどな

「わざわざお前のしょうもないボケに反応してやってんだから、悪く言っなよ。てゆうか古林ここに連れてこいよ、どうせアイツも暇だろ」

「まあ、基本的にそうだよな。でもアイツ勉強してんじゃね？」

「してるだろうな、お前と違って真面目だし」

「俺らと違ってな、メールしたからそのうち来るだろ」

「三人揃うのも久しぶりだよな、卒業式以来か？」

「夏休みも何だかんだで会わなかったもんな、半年ぶりか」

「半年も会ってねーのか。高校生って忙しいんだな」

「お前は行ってねーから分からねーよな」

「高校なんてつまらねーじゃん。だからお前も辞めたんじゃん」

「どいつもこいつも気持ち悪い奴ばかりだったからな。さすが三流高校だったぜ」

「古林も辞めたらいいのにな、だいたいアイツもつと頭良いところ行きやよかったのに、なんでお前と同じ高校にしたんだろっな？」

「アイツの考えって理解不能だからな、まあそのおかげでそれなりに高校も楽しかったんだけどな」

「てゆうかお前よく古林残して高校辞めれたよな。アイツ一人残して罪悪感ねーのか？」

「そりゃあ……無いな

「無いのかよ、ひでえな

「アイツは一人でも頑張れるさ、きつと、たぶん、おそらく

「なんの根拠もねーのな、まあアイツが来たら聞いてみるか」「そー
だな、それより惇也、いい加減布団から出てこいよ

「……しょうがねーな、出てやるよ。でもどうせ外でねーんだから
良くね？」

「いいから早く出る、本当お前はダメ人間だな

「お互いにな、よいしょつと

「つと、古林からメール来た。もう着くらしいぞ

「分かった、その前に着替えてくるわ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6344t/>

春の日

2011年10月9日02時57分発行